

付録Ⅷ平成二十六年鹿島神宮式年大祭「鹿島立ち」鹿嶋流甲冑流鏑馬



鹿嶋流馬上武芸



駒見せ



神職と武人



扇舞

鹿嶋流を探す 鹿嶋流の剣術理合に和駒の日本的な習性を加え鎌倉武者の大鎧や胴丸を着用して鹿島惣大行事家の御前で鹿嶋之武を試みる。自然界の法則と鹿嶋の理合が融合した形は美しい。人心を揺らし神力を誘う。馬上で重い兜や鎧を着用すると、乗人の頭部、首、肩の落としどころが複雑になる。うまく腰骨に乗せて呼吸法を用いて馬背に重力がかからぬ様な乗り方を探求する。今日隣国との軋轢がある時「鹿嶋立ち」の精神は和人に必要。

林佳夫撮影